

大阪大学大学院生命機能研究科

第七回 学生主催若手合宿研究交流会

報告書

第六回学生主催若手合宿委員会

1. 本合宿について

<合宿の目的>

学生主催若手合宿研究交流会は、イノベーションの礎となり生命機能研究科の理念でもある「異分野融合」を促進するために、学生・若手研究者が主体となった研究交流を目的として開催されてきた。今年度もその目的を継承して開催した。

第7回となる今回の合宿では、「Pioneer yourself, pioneer new field」をテーマとして掲げ、生命機能研究科・情報科学研究科・基礎工学研究科の3学科から参加者を募集した。その目的は、多様な研究分野や分化をバックグラウンドとしてもつ参加者同士が、学科の垣根を越えて交流することで新たな研究視野を開拓すること、将来の「異分野融合を通じた“おもろい研究”」につなげていくことである。

今年もこれらを意識してプログラムを用意するとともに、例年と同様に海外と名古屋大学の学生も本合宿に参加していただいた。

<合宿の概要>

第7回学生主催若手合宿研究交流会は、2013年7月29日（月）から7月31日（水）までの3日間、KKR 京都くに荘（京都府京都市）にて開催した。参加者の総数は73名で、そのうち本合宿に合わせて海外から12名（留学生自体は9名）、名古屋大学から1名の学生に参加していただいた。

本合宿では原則として英語を共通言語とした。研究内容を紹介し合うポスターセッションや、参加者が興味を持っているトピックスや社会問題について話し合い、それを発展させてゆく形のグループディスカッションを行った。また、研究者として第一線で活躍されている先生をお招きして、その研究内容や研究者としての生き方について講演していただいた。

（文責：三須 晃裕 D3/D5 近藤滋研）

2. ポスターセッション

<担当者>

| | | |
|--------|---------|------------|
| 草場 達也 | (吉森研 | D2/D5: 文責) |
| 英山 明慶 | (岡本研 | D2/D5) |
| 岡本 優 | (近藤(寿)研 | D3/D5) |
| 峰岸 かつら | (濱田研 | D5/D5) |



<目的>

ポスターセッションでは前年までと同じく学会様の形式で行った。ディスカッションを通じて参加者が自身の研究についてのフィードバックと、他分野での新たな知見を得ることを目的とした。また、本セッションをプログラムの始めに位置させることで、初対面の参加者同士の交流を深めることも狙いとした。

<内容>

開会式後にポスターを掲示し、昼食を挟んでポスターセッションを行った。発表を3グループに分け、1グループ当たり50分の発表時間とグループ間に10分の休憩を設けた。(前回の合宿で出た「発表時間が短かった」という意見を反映させ、全体の発表時間を長くした。) また、参加者に印象に残ったポスター3枚を2日目のプログラムの終了までに投票してもらい、集計後、閉会式にてポスター賞の表彰を行った。



<結果・考察>

アンケートの結果、「満足」「やや満足」を選択した参加者は全体の62%、「どちらとも言えない」が18%、「やや不満」「不満」が20%だった。その中でも「やや不満」「不満」を選択した参加者はM1の学生に多くみられた。また、評価に関わらず、「発表時間が短かった」や「自由に閲覧できる時間が欲しかった」、「興味のあるポスターを充分に見ることが出来なかった」等の意見が多かった。「満足」「やや満足」が過半数を占めることから、参加者は発表自体には概ね満足しているが、一方で前回までの合宿同様、発表時間に対して不満を持っていると思われる。

<反省点・改善点>

本合宿では全体の発表時間を長くすることに加え、グループを増やすことでより多くのポスターを閲覧できるように試みた。にもかかわらず、多くの参加者にとって、未だに「発表時間が短い」という不満が残る結果となった。この問題を解決するためには今まで以上に発表時間を長くする必要があるが、他のプログラムとの兼ね合い上、実現が難しいのが現状である。そこで、解決策としては発表時間を延長するのではなく、ポスター発表を初日の懇親会の直前に配置し、発表終了後も懇親会中にポスターの閲覧・ディスカッションができるようにすることが挙げられる。

3. グループディスカッション

<担当者>

秋田 大 (八木哲也研 D2/D5: 文責)
英山 明慶 (岡本研 D2/D5)
峰岸 かつら (濱田研 D5/D5)
北村 彩佳 (岡田研 D2/D5)
垣塚 大志 (柳田研 D1/D5)
岡本 優 (近藤寿人研 D3/D5)
山口 貴子 (改正研 D2/D5)
草場 達也 (吉森研 D2/D5)

<背景・目的>

本年度のグループディスカッションでは、これまでとは異なり具体的なテーマを設けず、何を話し合うかということからグループで決めてもらう形式にした。これは合宿テーマが「Pioneer yourself, Pioneer new field」であることを受けた、かなり自由度の高い新しい試みである。

<方法>

合宿前に、参加者の情報をもとに研究分野、学年、英語力等を考慮しながら参加者全員を 6 人ずつのグループに分配した。今年のグループディスカッションではまずテーマを決めるところから始めなくてはならないが、テーマを決定する手段として、各参加者に興味のある科学的トピックを紹介してもらい、そこから話を広げてテーマを見つけてもらった。ディスカッションの最中には、補助として各グループにノートパソコン 1 台とホワイトボードが用意された。

ディスカッションの結論はパワーポイントのスライドにまとめてもらい、最終日に発表と質疑応答を行い、最も良い発表をしたグループを投票によって決定し、表彰した。ディスカッションには合宿 3 日間総計で 8 時間が、最終日の発表には全部で 4 時間が割り当てられた。



<結果>

グループ分けの結果として、各グループに一人は海外からの参加者が組み込まれ、どのグループも英語が中心の議論となった。英語に長けていない参加者については、英語能力の高い日本人が先導する場面も見られた。

グループディスカッション初日では、関心のあるトピックをホワイトボードに書き出すなど、テーマ決定に向けた活発な議論が行われ、ほとんどのグループが初日で議題を決定することができた。二日目では決定したテーマについて議論を深め、三日目の発表に向けて議論のまとめとスライド作成の作業に各グループが取り組んだ。進捗の遅いグループの発表順序を遅らせるなどの措置もとったが、各グループが各々のディスカッションの結論を発表することができた。スケジュールとしては予定通りの時間で終えることができた。

アンケートの結果としては、満足とやや満足が約7割となり、約1割がやや不満、不満と回答した。満足の理由については、「英語で話ができよかった」など英語での議論に高評価が多く、他には異分野交流、異国間交流などが挙げられた。ディスカッションの割り当て時間や議題を決めるところからスタートする方式については賛否両論であり、アンケートで不満と答えた理由もこの二つに属するものが多かった。

<考察>

アンケートに満足と答えた参加者が多数であるので、今回の企画全体としては成功したのではないかと考察する。ただし、割り当て時間と自由度の高さについては不満と答えた参加者もあり、改善点はいくらかあったと考えられる。

まず、「全体的に時間が短い」という意見があったことについてであるが、一方では十分な時間があったという意見もあった。この問題はつまり各グループの進捗度合いにバラつきが生じてしまっているのが原因であり、ひいてはグループディスカッションの方式に根差した問題である。今回のディスカッションはかなり自由度が高かったことがこの問題の原因と考えられる。

割り当て時間については、「合宿全体の中でディスカッションの時間が細切れになってしまっており、議論を進めにくかった」という意見もあった。なるべくディスカッションに割り当てる時間を多くしようとした結果、確かに一つ一つのディスカッションに割り当てる時間が少なくなってしまった部分もあった。次回の合宿ではディスカッションが細切れにならないようにスケジュール全体を調整する必要がある。

ディスカッションのあり方についての不満としては、「不毛な議論になってしまふ」、「自分の専門分野でないテーマだと深い議論ができない」などの意見があった。これらの意見は今回の企画当初から持ち上がっていた点であった。想

定としては、各グループの委員がグループの一員として、そのような問題が発生しない方向に議論をすすめるように考えていたが、うまくいかなかったグループもあったようである。具体的テーマを与えないという今回のような挑戦的な企画では、このように参加者が不満を持ってしまう可能性を孕んでしまう。しかし、自由度の高さを満足の理由に挙げる参加者もいたので、不満のないように適切な配慮をしつつ企画をすることが重要であると考えられる。

4. 特別講演

<担当者>

山口 貴子 (改正研 D2/D5: 文責)
英山 明慶 (岡本研 D2/D5)
垣塚 太志 (渡邊研 D1/D5)
峰岸 かつら (濱田研 D5/D5)
岡本 優 (近藤寿人研 D3/D5)
秋田 大 (八木哲也研 D2/D5)
江原 和也 (中川研 D2/D5)
北村 彩佳 (岡田研 D2/D5)
草場 達也 (吉森研 D2/D5)

<目的>

本企画は特別講演①、②の二部構成で執り行われた。

特別講演①では、光学顕微鏡を用いた新しい定量解析技術の開発に挑んでいる渡邊 朋信先生にお願いした。渡邊先生からは新しい分野の開拓や研究者としての生き方についての話を伺った。

特別講演②では、女性研究者として子育てと研究を両立されている、上川内 あづさ先生にキャリアの形成とご自身の研究についての講演を依頼した。

<実施内容>

特別講演①

日時： 7月29日(月) 16:30~18:00

講演者： 渡邊 朋信

独立行政法人理化学研究所 生命システム研究センター
チームリーダー

演題： 「光学顕微鏡で生細胞のナノスケール現象を観て測る」

(英題： Observing and measuring nanoscale phenomena of a living cell with optical microscopes)

使用言語： 英語



特別講演②

日時： 7月30日(火) 14:30~16:00

講演者： 上川内 あづさ

名古屋大学大学院 理学研究科 教授



演題： 「聴覚研究の最前線を探検する」

(英題： Exploring frontiers in auditory neuroscience)

使用言語： 英語

<実施結果>

特別講演①

渡邊先生のご専門である顕微鏡の歴史的な話から先生の現在の研究、そして研究者としての人生についての話を頂きました。難しい内容や人生観については日本語を交えて行われた。

アンケートの「満足」「やや満足」を合わせた割合は約 74%と非常に高く、「研究内容以外に人生として大事なことを学べた」「inspiring lecture」といったコメントがみられた一方、「専門についての話は少し難しかった」という感想も見受けられた。



特別講演①の様子

特別講演②

上川内先生のキャリアを追いながら、その当時の研究内容を紹介するというスタイルでの講演であった。講演の途中では「自分の指導者が育児休暇で研究室を離れた場合どうするか」というアンケートも行われた。

アンケートでは「満足」「やや満足」を合わせた割合は約 68%と高かった。多く見られたコメントは、「プライベートとの両立を女性の立場で知れた。」「キャリアを考えるきっかけになった」といった（とくに女性の立場から）研究とプライベートの両立を考えるきっかけになったというものだった。中には「More personal history than research focus.」のような、研究内容よりもより一般的な話題に重点を置いてほしいというコメントもあった。



特別講演②の様子(質疑応答)

<反省点>

渡邊先生、上川内先生どちらの講演でも「満足」「やや満足」の場合のコメン

トには、研究の内容に対するものもあったが、多くは人生観やキャリア形成に参考になったというコメントであった。一方、「どちらとも言えない」「やや不満」と回答したコメントには「話の内容が難しい」という専門外の学生からと思われる意見が見られた。参加者のバックグラウンドが多様であることから、一般向けを意識した内容にする方がより参加者が楽しめるものになると考えられる。

また、コメントには「時間が長すぎる」という指摘が少なからずあったので、講演会の時間を再検討した方がよいと思われる。

5. エクスカーション

<担当者・文責>

角岡 佑紀（八木研 M2）

時本 功輔（河村研 M2）

徳井 甫光（近藤滋研 M2）

梶浦 直起（村上研 4 回生）



<目的>

研究討論から離れ、合宿の開催地である京都の歴史的文化に触れることでリラクゼーションタイムを提供するとともに、若手研究者同士がお互いにより深く理解し合う場を設ける。

<実施内容>

エクスカーションは合宿二日目の7/30、午前9:30～午後12:00に設けられた。目的地は下記の3ヶ所を用意し、希望者はこの中から1つを選び参加した。

- ① 京都御所コース
- ② 下鴨神社コース
- ③ 平安神宮コース

目的地にはホテルに近い京都御所までは徒歩で、残りの2つまでは京都市バスで移動し、それぞれ約2時間半の散策を行った。各目的地にはエクスカーションスタッフと他の合宿委員が最低2名付き添い、寺院の歴史や建造物の説明などを英語で説明した。京都御所では英語で説明してくれる御所側のガイドがいた。

散策の後、京都御所コースは徒歩で、残りのコースは市バスでホテルへ戻った。尚、市バスを使ったコースの参加者には出発前に市バス乗車チケットを往復分渡した。チケット料金は帰ってきてから委員が徴収した。



<実施結果・反省点>

元々京都御所コースと下鴨神社コースの 2 ヶ所を用意していたが、エクスカージョンの参加率が例年よりも高かったため、急遽 3 番目のコースとして平安神宮を設定する必要があった。京都御所は人気が高く、事前登録が必要にもかかわらず満員となった(最大定員数は 50 名)。京都御所に行けなかった方には他のコースに参加していただいた。

昨年のアンケート結果ではエクスカージョンをもう少し長くしてほしいという意見が多かったため、今年は 1 時間多く、午前 9:30~12:00 までの 2 時間半をエクスカージョンに割り当てた。結果、参加者からは「ゆっくり見て回るのに十分な時間だった。」という意見を多く頂いた。それでも「短かった」と答える方がいなくなったわけではないが、エクスカージョン自体の目的が合宿中の気分転換や、友好を深めることであるため、これ以上長くすることは難しい。

当日は気温が高く熱中症が心配されたが体調を崩した参加者は出なかった。参加者からの感想では「行ってみてよかった」「程よく気分転換できた」など好評で、例年より多かった海外からの参加者からも、日本の歴史や文化に触れることができるとても良かったと評判が良かった。

このように多くの参加者から満足度の高い評価を頂くことができたが、改善すべき点もある。今年のカンパ地は京都の中心地だったため、周囲にエクスカージョン候補となる寺院が多く、当初徒歩による移動を計画していた。ところが実際の距離は徒歩には少々長く、前日になって急遽市バスで移動することになった。このため料金徴収の際に混乱が生じてしまった。

本年度のエクスカージョンの外国人参加者率は昨年より増加した。エクスカージョンへの満足率も昨年よりも高かった。目的地の歴史や各寺院独特の特殊な日本語の説明を英語で事前準備していたため、参加していただいた方々には日本の文化を知ってもらえる良い機会を提供できた。

6. 総括

今年度の若手合宿は、より広い領域で異分野交流を図れるよう、生命機能研究科だけでなく、情報科学研究科、基礎工学研究科の学生からも参加者を募った。海外からも多くの参加者が来日し、様々な分野の研究に触れる機会を提供するとともに英会話での研究交流も活発に行うことができた。

昨年は合宿運営の立ち上げが遅かったため、海外からの招聘など十分な準備ができなかった。そこで今年は1月の中旬から本格的な活動を開始した。そのため海外からの参加者も十分に確保でき、英会話の機会を求めて参加される学生からの評価も高く得ることができた。アンケート結果によれば合宿全体としての評価も大変よく、とても成功したと言える。今後もこの若手合宿を継続して開催していくことは、将来的に融合研究に携わる若手研究者の育成に大きく貢献できるはずである。

一方、例年と同様、D3以上の参加者は全体の2割ほどしかなく積極的な参加は見られなかった。これは、学年が上がるほどどうしても自身の研究の都合を優先する傾向が強くなってしまいうことが一因かもしれない。D3以上にとっても魅力的な合宿とするためには、口頭発表のプログラムを設けて学会前の英語発表の練習の機会を提供していくなどの工夫をしていく必要があると思われる。

一方でD1、D2までの低学年層の参加者は5割ほどにもなったが、外国人とのコミュニケーションを積極的に行う場面が多く見られた。これは一定以上の割合の外国人がいることで自然と合宿内での公用語が英語に変わったためだと思われる。このことにより、普段から英語を敬遠している学生にも英語でのコミュニケーションの重要性を再認識させることができた。以上のことから低学年層からの英語教育の一層の充実を進めつつ本合宿を継続していくことは、非常に有意義であると思われる。

(文責: 三須 晃裕 D3/D5 近藤滋研)

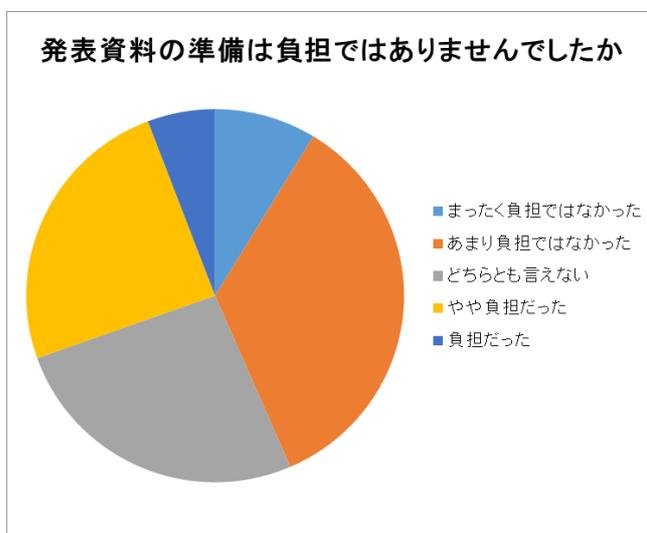
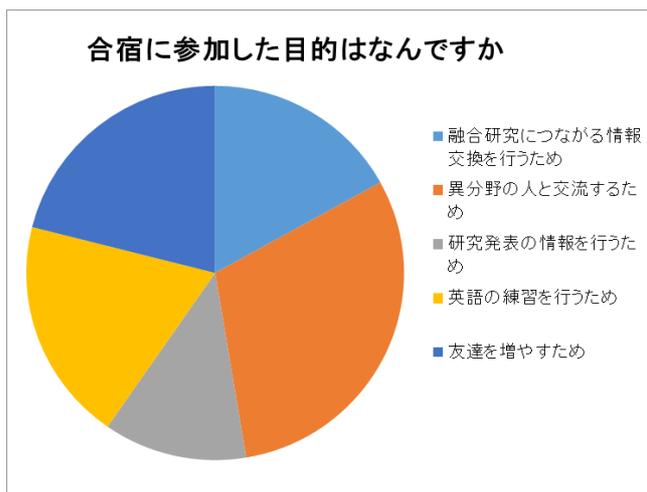
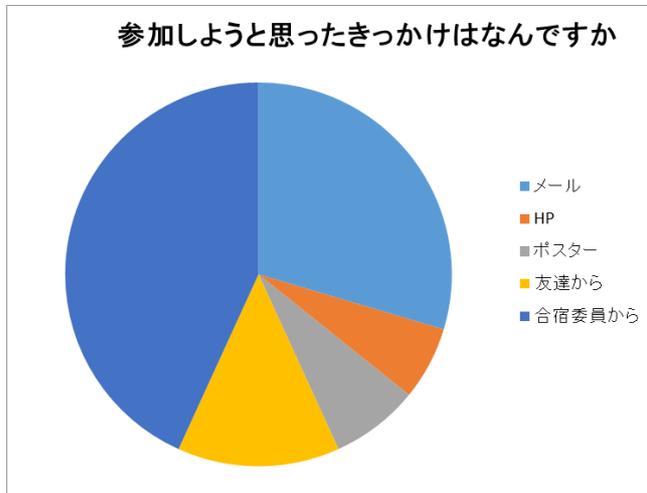
<第六回学生主催若手合宿研究交流会 実行委員紹介>

| 名前 | 学年 | 研究室 |
|--------|-------|---------------------------|
| 三須 晃裕 | D3/D5 | パターン形成研究室 (近藤滋研) |
| 英山 明慶 | D2/D5 | ミトコンドリア動態学研究室 (岡本研) |
| 峰岸 かつら | D6/D5 | 発生遺伝学研究室 (濱田研) |
| 北村 彩佳 | D2/D5 | 発癌制御研究室 (岡田研) |
| 垣塚 太志 | D1/D5 | 生命動態イメージングセンター (柳田研) |
| 岡本 優 | D3/D5 | 形態形成研究室 (近藤寿研) |
| 山口 貴子 | D2/D5 | 免疫機能統御学研究室 (改正研) |
| 江原 和也 | D2/D5 | 超分子構造解析学研究室 (中川研) |
| 草場 達也 | D2/D5 | 細胞内膜動態研究室 (吉森研) |
| 秋田 大 | D2/D5 | 生体システムデバイス領域 (八木哲也研) |
| 角岡 佑紀 | D2/D5 | 心生物学研究室 (八木健研) |
| 梶浦 直起 | D1/D5 | 脳システム構築学研究室 (村上研) |
| 時本 功輔 | D2/D5 | 細胞内情報伝達研究室 (河村研) |
| 西村 徹 | D2/D5 | 病因解析学研究室 (仲野研) |
| 藤井 裕己 | D2/D5 | 生体分子機能学研究室 (倉光研) |
| 川合 杏奈 | D2/D5 | 形態形成研究室 (近藤寿研) |
| 村 苑子 | D2/D5 | 細胞内分子移動学研究室 (米田研) |
| 高見 享祐 | D2/D5 | 産総研バイオインタフェース研究グループ (小島研) |
| 澤田 莉紗 | D1/D5 | パターン形成研究室 (近藤滋研) |
| 長谷川 翔 | D2/D5 | 神経可塑性生理学研究室 (小倉研) |
| 徳井 甫光 | D2/D5 | パターン形成研究室 (近藤滋研) |
| 荒川 達彦 | D2/D5 | 病因解析学研究室 (仲野研) |
| 青木 康一 | D1/D5 | ナノ・バイオフィotonics研究室 (井上研) |

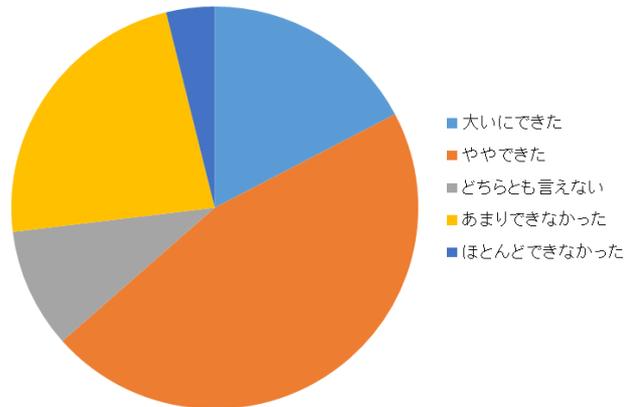
<謝辞>

本合宿は、リーディング大学院ヒューマンウェアプログラムと共に生命機能研究科の支援のもと開催されました。このような機会を与えて下さった難波先生、柳田先生、研究科長の濱田先生、また多くの海外研究者の招聘に協力して下さった先生方、田中さんを始め企画室の方々、そして合宿の開催に尽力してくれた実行委員の皆や合宿に参加して下さいました皆様、深く感謝致します。

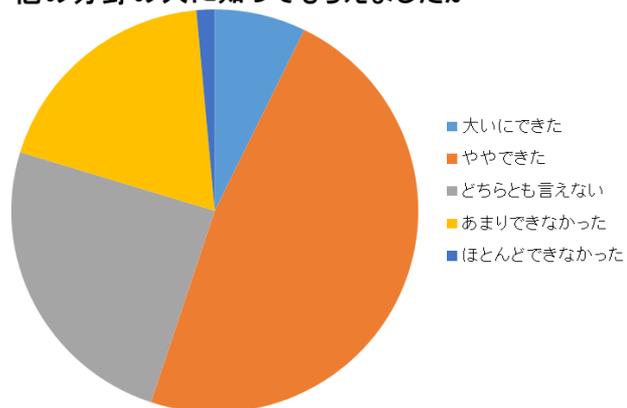
7. アンケート集計結果



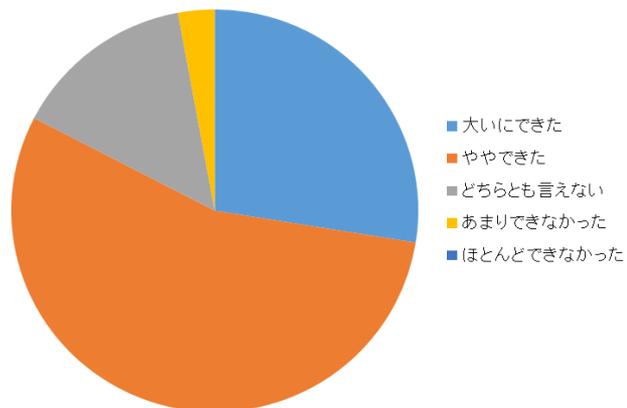
英語を使って十分な交流ができましたか

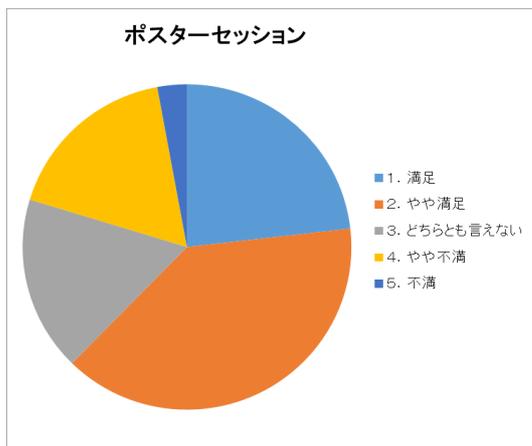


自分の研究や考え方を他の分野の人に知ってもらえましたか



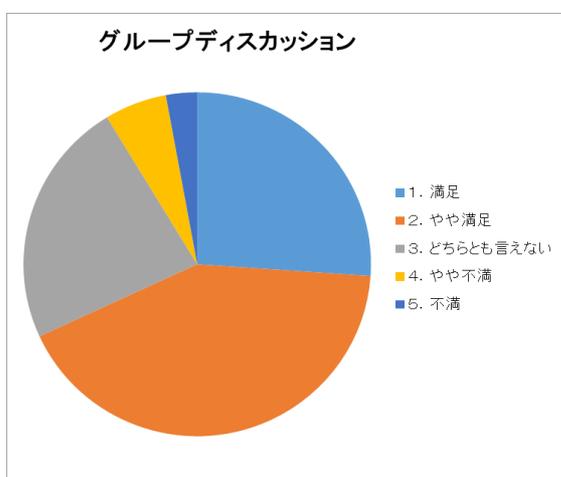
さまざまな分野の人と交流することはできましたか





<具体的な意見>

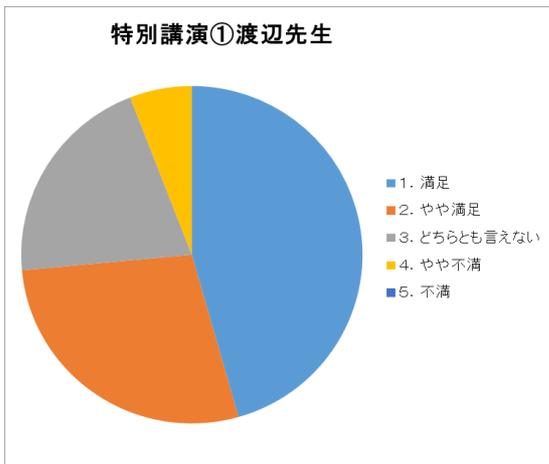
色々な分野のポスターが見れたがこちらからの発信がほとんどできなかった。/もう少し時間をとってほしかった。/時間が長い/もう少し長い方がよかった/たくさんの異分野の方の研究内容が分かりました。/聞く時間も発表時間も丁度良い/新しい話が聞けて楽しかった。/"A bit short, but otherwise , great"/I didn't have enough time to see/talk to all poster presenters. /"in a good amount a poster , may be a little more time for a poster session."/Very good opportunity for explain my research./Good experience to share our work. Maybe it was too short time to look at other people's work. /海外の人に説明する練習が出来て楽しかったです



<具体的な意見>

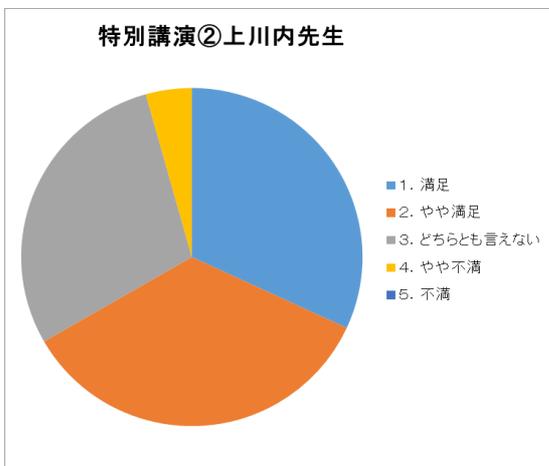
もう少し英語力を挙げておきたい。

/メンバーの決め方がよく、英語が苦手な人でも参加しやすかったです。/もう少し議論を深める時間がほしかった/ちょうどいい/英語で話が出来て良かった/テーマを決めるのが難しかった。/少し長かった/時間が短く、しんどかった。/時間内にまとめられたので良かったです。/"We were having loads of fun thinking , creating and practising presentation. I think it helped my team improving english."/外国人が多かったので、昨年よりずっと英語を話せました。



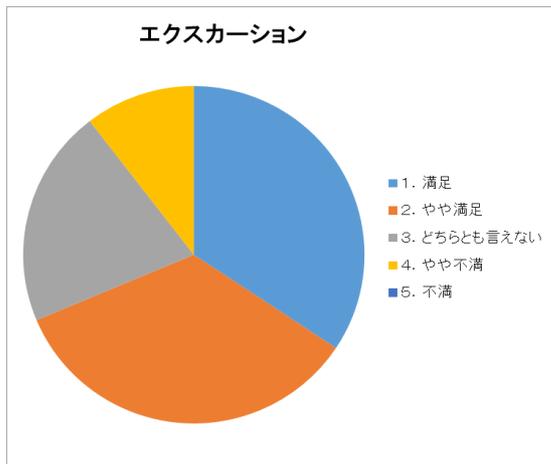
<具体的な意見>

Entertaining. 3 original ideas presented in a light way, easy to follow and understand. I would prefer if speaker was using more English in Q&A session./ inspiring lecture/ The topic is interesting./ Unique research and the way he thinks are attractive./ Very interesting & the talk about motivation & "やったらしまいや"was very nice./ 色々な話が聞けて良かった。/ 研究以外の話（モチベーションなど）がとても面白かった。/ 研究内容以外に人生として大事なことを学べた。/ 研究内容ではないことを聞いたかった。



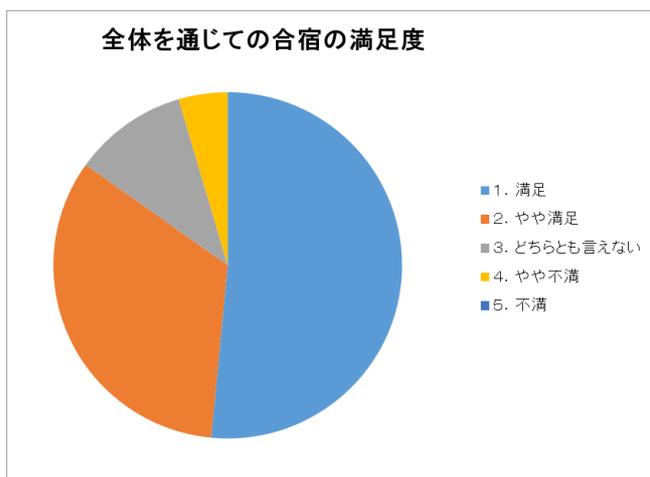
<具体的な意見>

Amazing combination of presentation of research results and opening questions about "researchers life" (career v. s. family)/ More personal history than research focus. / Practical approach/ The topic is easy to understand and interesting. / Was important to know the vision woman in science. / キャリアを考えるきっかけになった。/ 女性からの目線は普段あまり考えないので、よい講義でした。/ 女性としてのキャリアを考えるのに役に立った。/ 女性の生き方が学べてよかった。/ 神経分野という今の自分のテーマとは異なるものを聞いた。/ 話が少し難しかった。/ プライベートとの両立を女性の立場で知れた。/ もう少し活発な意見交換をする時間を持ちたかった。



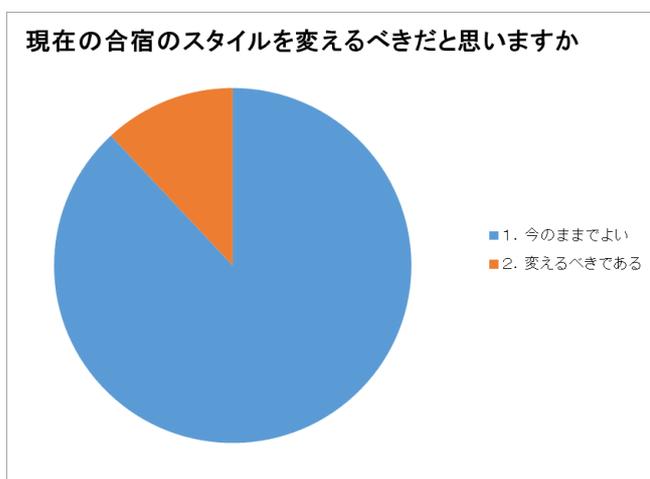
<具体的な意見>

暑かったが楽しかった/満足/ゆっくり見て回るのに十分な時間だった。/たのしかった/遠かった/外国の方にはよかったと思う。/もう少し時間をとってほしかった/外国人が自由！でも、はぐれた人がいなくてよかった。/リーフレットに行先を記載してほしい/バスの移動が大変だった。/移動時間がかからず、効率よく十分楽しめたと思います。/朝が早くて少しきつかった。/色々まわられた。/ほどよく気分転換できた。 /Organizers took good care of organizing various trips , having enough opportunities for everyone./Very interesting and beautiful place , and it was good moment./ Good life experience./ Great organization! Nice time to bond. / Beautiful shrine./ It is a good chance to learn some old architecture in Japan.



<具体的な意見>

来年もまた来たい/とても楽しかったです/お金がかからないので良い/内容が濃くて充実した三日間だった。/去年より面白かった。/楽しく過ごせた。/来る前は嫌だったけど、楽しかったです。/I enjoyed it very much. The retreat was very well-organized./I think it helps japanese young researchers in boosting their communication skills in english but also in getting experience from overseas students. I was amazed by great variety of topics presented during poster session. / I think that the retreat could be better with more conference./思っていたより英語で話す機会も多く、たくさんのことを学べたと思います。/去年より良いものになったと思う。/英語でたくさんコミュニケーションを取ることが出来て満足です。/異分野の人と交流を楽しむことが出来た



<具体的な意見>

英語を話せない or 伝えることができない学生へのフォローをしたりするといいと思いました/Add more conference./ グループディスカッションのテーマ設定にもう少し具体性を持たせてほしい